

## 米国スクールナースの執務における実態

天野 敦子                      平川 亜矢子  
(養護教育教室)                  (八王子市立清水小学校)

### Current School Nurse Work Activities in America

Atsuko AMANO  
(Department of Health Education)

Ayako HIRAKAWA  
(Shimizu Elementary School)

#### ABSTRACT

This author has studied the activities of 100 American school nurses in the first week of October, 1986. This thesis will describe the actual activities of the first week in October. In addition, the nurses' own estimates on each activity will be broken down according to time spent, attitude and confidence.

These points became clear:

- 1) The most time was spent on health observation, screening, individual health counseling, first aid and surveys of children's health. The least time was spent on checking attendance, preparing balance sheets, consulting with physicians, leading student activities and campus inspection for safety.
- 2) American school nurses are confident in all activities, especially in screening and first aid.
- 3) American school nurses display their most positive attitudes toward health counseling for individuals, counseling and consulting with teachers, health observation, health counseling for parents and referral to community resources. Their feelings are most negative toward checking attendance, preparing balance sheets, and arranging or preparing documents.
- 4) The average American school nurse seems to be a middle-aged woman with a bachelor's degree and clinical experience. She works at two or three schools a week.

## 1. はじめに

米国におけるスクールナースという職種は1902年、ニューヨークの看護婦<sup>1)</sup>Waldが当時蔓延していた皮膚病などの伝染病に罹患していた児童の世話のために、公立学校に看護婦を派遣した時から始まった。それ以来、その成果が各地に伝わり、全米にスクールナースという職種が普及していった。1920年代は保健教育がクローズアップされた時期であり、スクールナースは病児の世話だけでなく、教育、指導にも関わりを深めた。1950年代になると学校と地域の医療機関の調整者として学校の管理者に重宝がられた。1970年代には、「全ての子供は必要であればいつでも医療サービスを受けられる」というプライマリーヘルスケアの概念にもとずき、また当時のリベラルな社会風潮も幸いして、スクールナースプラクティショナー(SNP)と呼ばれる職種が出現した。それは、スクールナースの看護技術の上に聴診器、耳鏡、鼻鏡、を使用する医学的診断技術や、<sup>3)4)5)6)</sup>カウンセリング技術を加えもったスクールナースのことである。その有効性を認めた論文も散見されたが、<sup>7)8)9)</sup>予算の問題や、領域を同じくする他の専門職(医師やカウンセラー)との摩擦などの問題が残されており今のところ、全米に広がっていく傾向は認められない。

おおまかな歴史はこのようであるが、<sup>10)</sup>スクールナースの実際の活動状況に関しては余り一般に知られていない。小倉が米国スクールナースの職務の指針を紹介してはいるが、他に具体的活動状況に関する報告は見られない。制度的には異なるが、米国スクールナースの実態を明らかにすることは、日本の養護教諭の職務に示唆するものがあると考えて本研究を行った。

## 2. 研究方法

### (調査方法)

1986年11月中旬～12月下旬に、全米からランダムに選出されたスクールナース300名を対象に米国コロラド州コロラド大学看護学部のIgoe准教授を介して、アンケート調査を郵送法により行った。回収率は100名(33.3%)であった。

### (調査内容)

<sup>11)</sup>Whiteのスクールナースの職務に関する研究を元に、29項目の職務内容を作成し、それらに対する消費時間、意欲、自信の度合を調べた。その他、充実感、喜び、挫折、および10月の第1週の職務の実態に関して調査した。本稿では、職務に対する消費時間、意欲、自信の度合と10月の第1週の職務の実態に関して報告する。

## 3. 結果および考察

### 1) 対象者の特性

回答のあったスクールナースの特性は表1に示す通りである。学歴では、短大卒レベルのものはわずか17.0%、4年制大学出身者が55.0%、修士課程出身者は28.0%と全体に高い学歴を示した。年齢では、30代までは12.0%であるのに対し、40代以上が64.0%を占めており、平均年齢は高かった。経験年数では、5年未満のものは8.0%と非常に少ないのに対し、20年め以上のものは28.0%と約3割であったが年令の高さに比べると割合が少なかった。勤務校では、2000人以上の児童生徒を受け持っているものは30.0

表1 対象の特性

区 分		人 数 N=100
学 歴	短大他	17
	四年制大	55
	修士課程	28
	博士課程	0
年 齢	24歳以下	0
	25～29歳	1
	30～39歳	11
	40～49歳	20
	50歳以上	44
	NA	24
経 験 年 数	1～4年目	8
	5～9年目	27
	10～19年目	36
	20年目以上	28
	NA	1
児 童 生 徒 数	300人未満	6
	300～499人	7
	500～999人	22
	1000～1999人	27
	2000人以上	30
	NA	8

％も占めているが、これは複数校兼務のため高率を示したものである。平均年齢が高いのはスクールナースになる前に、病院勤務を経験するものが多いからであると思われる。なおSNPの資格を持っているものは回答者のうちの36％であった。

表2は勤務校の内訳を示したものである。全体で1校のみに勤務しているものは、30.0％であり、複数校を兼務しているものが60.0％と過半数を占めている。受け持っている学校数では2～3校が33％と最も多かった。

表2 勤務形態

N = 100

区 分	校 種				特殊 学校	小学校 および 中学校	中学校 および 高校	小学校 および 高校	小学校 中学校 高校	小 計	非該当	無記入
	小学校	中学校	高 校	小学校 および 中学校		中学校 および 高校	小学校 および 高校	小学校 中学校 高校				
1校のみ	13	6	10	1						30		
複数校兼務	11	0	0	0	49				60	8	2	
					21	5	6	17				
内 訳	2～3校	7				13	4	5	4	33		
	4～6校	4				6	0	1	7	18		
	7～9校	0				2	0	0	5	7		
	不 明	0				0	1	0	1	2		

## 2) 職務に対する時間消費, 自信, 意欲

表3はそれぞれの職務内容に対してどの程度の時間を費やしているか, (1. none 2. small 3. moderate 4. large) どれほどの自信があるか, (1. not at all confident 2. a little confident 3. confident 4. very confident) 意欲はどれくらいあるか, (1. I hate it, so I don't want to do it. 2. I don't want to do it very much. 3. I want to do it. 4. I want to do it very much.) について4段階で回答を求め, 1~4点で点数化して時間の消費度合の平均の高いものの順に上から並べたものである。なお1項目でも回答のないものは省いたため対象者66名で分析した。時間消費では, 健康観察, 集団検診(スクリーニング), 個別健康相談, 救急処置, 児童・生徒の健康状態の調査が上位を占めている。下位では出席の記録, 決算報告の準備, 学校医との相談, 児童・生徒保健委員会の指導, 校内巡視が見られた。上位はいずれも児童・生徒との緊密な接触, あるいは観察といったような児童生徒に関係するもので占められていた。下位では特に子供とは関わりのない事務仕事や単純なチェック作業が見られた。26位の児童・生徒保健委員会の指導は, 複数校兼務のものは時間的に余裕がなく, 実際には行えないという実状があるので時間の消費度合が少なくなったと思われる。

自信では, すべての項目で平均3.130以上を示し職務に自信を持っているということがわかる。その中でも, 集団検診, 救急処置の平均が, 各々3.877, 3.818であった。これはスクールナースになる前に, 病院でナースとして勤務していたものが多いという実状から臨床経験が豊富であり, 特に自信があると思われる。

意欲では, 個別健康相談, 教師との相談あるいは協議, 健康観察, 親への健康相談, 地域の保健資源への照会が上位を占めた。下位は出席の記録, 決算報告の準備, 書類の整理・保存等であった。相談的な活動が上位を占め, 児童・生徒や親とのパーソナルな対話・ふれ合いの機会が持て, また専門性につながる活動が好まれている。地域の保健資源への照会が3.492で5位を占めたが, これは保健医療機関のナースとしての勤務の中で地域の保健資源とも親密な関係があったという経験から連携が取りやすいということがあると思われる。一方, 下位では事務的なペーパーワークが目だった。

消費時間, 自信, 意欲の3つの関係をみると, 個別健康相談や健康観察においては意欲を持ち, 自分の能力に自信をもってじっくり取り組んでいるようである。救急処置や集団検診は多くの時間を割いているが意欲の度合は意外に低かった。これらの活動における意欲の低さは, 学校場面の救急処置ではそれほど技術を必要としないこと, 救急処置や集団検診で時間をとられ, 自分のやりたい他の活動に時間を使えないという理由からであろうと思われる。

消費時間, 自信, 意欲のすべてで上位に入っているものは, 児童・生徒の健康状態調査, 教師との相談あるいは協議であり, このことから米国スクールナースの教師との関係の良さ, あるいは彼らから信頼を得ていることがわかった。いずれの項目においても下位を占める活動は, 事務的なもの, 子供との接触のないもの, 医師との接触であり, 消費時間, 自信, 意欲の間で大きな変動はなかった。

また White<sup>11)</sup>の得た消費時間や自信に対する度合の平均点と比較しても大きな順位の入れ替えは認められなかった。

## 3) 実際の執務状況

米国スクールナースの執務における実態

Table 3 Order by Mean Anser Score: Time spent, Attitude and Confidence of Activities in School Nursing in America

Activities	Mean		
	Time spent	Confidence	Attitude
Health Observation	① 3.500	⑫ 3.576	③ 3.615
Screening	② 3.484	① 3.877	⑱ 3.234
Counseling to Individuals	③ 3.359	⑬ 3.561	① 3.652
First Aid	④ 3.257	② 3.818	㉓ 2.954
Survey of Students' Health Status	⑤ 3.197	⑦ 3.641	⑩ 3.375
Conferring with Faculty	⑥ 3.152	④ 3.697	② 3.621
Complaint-Oriented Appraisal	⑦ 3.127	⑮ 3.540	⑬ 3.371
Referral to Community Resources	⑧ 3.031	⑩ 3.591	⑤ 3.492
Counseling to Parents	⑨ 3.000	⑨ 3.621	④ 3.606
Problem-Oriented Assessment	⑩ 2.871	㉒ 3.375	⑥ 3.483
Planning Your Health Program	⑪ 2.813	⑱ 3.492	⑦ 3.469
Physical Examination and Assesment	⑫ 2.778	㉖ 3.262	⑨ 3.431
Taking Health and Social Histories	⑬ 2.738	⑥ 3.682	⑧ 3.462
Evaluating the Effectiveness of the Program You Have Done	⑭ 2.708	㉕ 3.297	⑯ 3.313
Conferring with School Adoministrators	⑮ 2.652	⑩ 3.591	⑭ 3.364
Providing Services for the Handicapped	⑯ 2.646	㉓ 3.339	⑱ 3.290
Filing	⑰ 2.591	③ 3.726	㉗ 2.409
Maintaining Medical Supplies and Equipments	⑱ 2.585	⑤ 3.692	㉖ 2.846
Consulting with Community Health Care Provider	⑲ 2.469	⑯ 3.531	⑩ 3.375
Conferring with Your Supervisor	⑳ 2.453	⑧ 3.625	⑩ 3.375
Teaching in Classrooms	㉑ 2.303	㉘ 3.215	⑰ 3.297
Attendance of faculty Meetings	㉒ 2.277	⑭ 3.541	㉔ 2.871
Participating the Training Session	㉓ 2.222	⑰ 3.429	⑳ 3.179
Home Visits	㉔ 2.092	⑰ 3.524	㉒ 3.113
Campus Inspection for Safety	㉕ 1.968	㉙ 3.130	㉕ 2.868
Leading Students' School Health Team	㉖ 1.741	⑳ 3.441	㉑ 3.159
Consulting with School Physician	㉗ 1.723	⑲ 3.444	⑮ 3.339
Preparing the Balance Sheets	㉘ 1.451	㉔ 3.320	㉘ 1.941
Recording Attendance	㉙ 1.203	㉗ 3.257	㉙ 1.744

N=66

Answer Choices: 1. none, 2. small, 3. moderta, 4. large  
Mean Answer Scores are ordered by Numbers.

米国は地方自治制度の発達している国であり、州の経済状況、割り当てられる教育予算によって、学校保健、スクールナースのあり方などに差がある。例えば、アラバマ州のように1980年現在で、全州でわずか50人のスクールナースしかおらず、保健室の設置さえも規定されていない州がある一方では、オハイオ州のようにすべての公立学校にスクールナースの設置が義務付けられている州もある<sup>12)</sup>というのが現実である。

しかしながら、実際に正規に勤務しているスクールナースはすべてがナースの免許をもち、職務に対する考え方や意識に巾があるとは思われない。従って、全米の広域にわたる本研究の調査結果は現実の姿を反映していると思われる。

以下に、1986年10月第1週の執務記録の回答の中から勤務形態別に4例を紹介する。なお地域の選定にあたっては、ニューハンプシャー、サンフランシスコ、テキサスと東、西、南部を取りあげ地域的に偏りのないようにした。また、校種は小、中、高、勤務形態は単独校勤務と複数校勤務を選んだ。

事例1は、小学校1校のみに勤務しているスクールナースの執務の様子である。児童数980人、場所テキサス州、年齢41才、経験年数5年である。1週間を通して毎日保護者と電話で会話しており保護者との連絡が密である。7学級に保健指導を行っており、教育的活動も活発である。地域のガールスカウトに救急処置法を指導するなど地域の保健指導者の機能も有している。

事例2は、中学校1校のみに勤務しているスクールナースである。生徒数401人、場所ニューハンプシャー州、年齢51才、経験年数19年である。1週間のうちに保護者および教職員、地域の教育関係者と会議・会合を併せて12回もおこなっており生徒の健康向上を目的とした積極的な努力が伺われる。「学校カウンセラーと相談」(Conference with school counselor)でわかるようにカウンセラーとの連携も見られる。保護者に与薬を依頼された場合、あらかじめ医師のサインを得たうえで、さらに保護者から了承のサインをもらっている。

事例3は、高校1校のみに勤務しているものである。生徒数1450人、場所サンフランシスコ市、年齢44才、経験年数7年である。「保健室」の意味は表下の注に記載されているように、健康評価、救急処置、カウンセリング、教職員や保護者との会談、事務処理等をこの時間に行うということである。米国では、麻薬、アルコールに冒された生徒の増加が社会問題化しており、学校内で麻薬、アルコール対策が行われている。それと同時に保護者への保健教育も行われている。

事例4は小学校5校、重度障害児の幼稚園1校に勤務している複数兼務のスクールナースである。幼児、児童数併せて1200人、州名は記入されていなかった。年齢60才、経験年数13年である。小学校5校は1～5まで番号が振ってある。「連鎖球菌の培養」でわかるように臨床検査的作業も行っている。このように専門的なことも行うが火曜日など1日で4校を回らねばならずきめの細かい執務は困難であると思われる。

以上が勤務形態別にみた代表的な事例である。

次に、回答者全体の具体的記述内容の中にみられたいくつかの特徴的な活動について述べる。

Example 1. 980 Students, Elementary School, Texas

	Mon.	Tues.	Wed.	Thur.	Fri.
8:00	Provide basic first aid to students Medication sheet Answer parent calls	Student care New medication  Parent calls	Parent calls Student care New medications Paper work	Student care New medications Parent calls Paper work	Student care New medications Paper work Parent calls
9:00	Screened 2 new students  Continue first aid for ill students	9:25 Disease control class		Plan education and screening programs for next week	9:25 Basic aid class
10:00	Continue student care Collect permission slips for testing record	10:00 Basic aid class 10:25 Disease control class		10:30 Health living class for kindergarten	Student care Parent calls Plan programs
11:00	Continue student care Begin giving student medication	Basic aid class Student care Student medications	Student medications	Student care Student medications	Health screening for special education students
12:00	Lunch time (11:30-12:00)				
13:00	Continue care Continue medications Continue paperwork	Student care Student medications Telephone plans for staff health service	Student care Student medications Telephone plans for staff health service	Student care Student medications	Student care Record keeping
14:00	Same as above	Same as above	Same as above	14:20 Health living class for kindergarten	
15:00	Left school to attend Texas Nurses Board meeting			Student care 15:45-17:00 Presented First aid class to Brownie Troop	
16:00	Texas Association School Nurses Board meeting	Record  Student clinic visits and symptoms	Record  Student clinic visits and symptoms		
17:00	Same as above				

米国スクーラーナースの執務における実態

Example 2. 401 Students, Junior High School, New Hampshire

	Mon.	Tues.	Wed.	Thur.	Fri.
8:00	Teachers/nurse/parents conference on students being evaluated	Order curric. Material for sexed unit in April	Conference with school counselor	Parents/teachers/nurse conf. on newly referred students	Special Ed teacher/nurse conf. with all spec. teachers (Art. Music. Gym, Shops, Home Ec) discuss spec. students
9:00	Planning Telephone calls to make appointments with parents	Planning Filing/charting Checking supplies Read	Parents/teacher/nurse conference on students coded A. D. D.	Planning Filing Charting Tel. calling	Meeting with 2 principals & director of Health Ed, State of N. H.-to promote new curriculum
10:00	Vision & hearing screening on new students (4)	Screening	Check on students inattentive Hearing on students referred	Emergency referral-asthma attack Screening	Conf. with parents bringing students back to school and referral-mediocation started, forms, signed Tel. call to another parents
11:00	Counseling emotionally disturbed students upset with weekend Follow-up PC staff	Health office Students care	Observe students in grade 5 class room recent referred	Vision & Hearing Conf. with grade 9 team on a state wide conf.	Tel. call to reports teacher evals of students on Ritolin to mother Vision & hearing screening
12:00	Medications given daily to 4 students		LUNCH TIME		
13:00	Nurse assess. of 3 students referred to CORE Tel. call to school psychologist	Nurse observe in class room Charting & checking records of athletes	Tel. call to students absent with recent injury Vision & hearing screening	Drafted permission slips for conf.	Screening continued
14:00	Memo's written to teams with latest health update  Grade 9 students reports to health office daily to clean, file daily log cards, run errands and assist where appropriate, heights and weights finished this week			Vision & hearing screening	Meeting with other school nurse in districts to plan
15:00	Parents/teacher nurse conf. on special ed. students	Executive board meeting, born ed. association	CORE team meeting on special ed. students	Ill student care	Tel. call to parents-child injured on field trip today. Accidents report written
16:00				Go to home of coordinator of a state-wide Conf. to pick up registor forms for 5 students. (last minute opportunity for being involved.)	
17:00		5:30-7:30 "P.T.O. back to school night"			

Please note-Visits to health office by ill & injured students occurred and are not written above (except for a few).



**Example 3. 1450 Students, High School, San Francisco, California**

	Mon.	Tues.	Wed.	Thur.	Fri.
8:00	In office seeing students	In office	Faculty preparation level inservice on drugs and alcohol	In office	In office
9:00	Vision and hearing screening				
10:00	In office	Vision and hearing screening			
11:00		In office		Vision and hearing screening	
12:00	Lunch Time		Lunch Time		
13:00	Natural helpess meeting	In office		In office	In office
14:00	Meet with counselors				Vision and hearing screening
15:00	Paper work	Student assistance			In office
16:00	Off	Off			
17:00	Off	Parent education			

In office, means health assessment, first aid, counseling, talking with faculty and parents, filing and doing paper work.

**Example 4.** 1200 Students, 5 Elementary School and 1 Seriously Handicapped Kindergarten

	Mon.	Tues.	Wed.	Thur.	Fri.
8:00	Ele. Sch. 1 Vision and hearing screening for grades k, 1, 3, 5	Ele. Sch. 1 Streptococcus culturing	Ele. Sch. 1 Refer vision and hearing	Kindergarten 1 Screening	Ele. Sch. 1 Immunization survey
9:00		Ele. Sch. 2 (Pre school) Vision, height and weight	First aid		Rescreening vision and hearing
10:00		Ele. Sch. 3 Medications and permits signed	Ele. Sch. 3 Physical education limitations		
11:00		First aid	First aid		Ele. Sch. 3 Rescreening vision and hearing
12:00	Lunch time (11:30-12:00)				
13:00		Ele. Sch. 4 Immunization survey	Streptococcus culturing Medical assessment	Ele. Sch. 5 Immunization survey	Immunization survey
14:00	Vision and hearing screening continues	Prepare vision and hearing, screening	Review vision and hearing referrals	Medical assessment	Prepare height and weight survey
15:00					
16:00	Community child care committee meeting	Distribute height, weight, sheets			
17:00					

児童生徒の集団検診を行う場合、日本のように日を決めて短期的に集中して全校行事として行うのではなく、年間を通して必要が生じたときに、担任の合意のもとに実施する学校がほとんどであり、スクールナースにとっては面倒な状況である。予防接種においても全校で一斉に行われておらず、問題が見つければ保護者に連絡し、医療機関への受診を進めるといのように、常に接種状況のチェックをしなければならない。

保健室にはスクールナース専用の電話が設置されており、その電話を通して種々の調整、保護者への連絡がなされ、保護者、他校の教師および事務局からの質問を受けることができ、このことが、地域住民と健康に関してのコミュニケーションをはかることに大いに役だっていると思われる。しかしながら、執務中も頻りに電話が鳴りその対応に追われ、処置や相談などが中断されたりするという不満を述べているスクールナースも少なからずいた。

校内や、地域内で保健に関するチームが多数あり、ナースの定例会を含めて会議・会合も数多く行われており、児童・生徒の健康問題に柔軟に対応できるシステムになっていると思われる。

複数校兼務のものは、曜日で変わる形態が大勢を占めているが、学校同士が近くにある場合は、時間帯で行き来している形態も認められた。また複数校を兼務しているものは、週に1～2回しか同じ学校に行かないので、帰宅時には経過観察を要するものや種々の問題に関して、担任および事務員のために連絡事項の書き置きをして対応するなど、大変さが伺える。複数校兼務では子供一人一人に対応するきめ細かい保健活動が行われ難いということである。

以上の結果から米国のスクールナースは日本の養護教諭と制度的には異なっているが執務内容自体は、傷病者の救急処置、集団検診、保健指導、健康相談を中心としており、日本とそれほど変わらないことがわかった。しかし、それらの運用の仕方は相当に異なっており、スクールナース自身の判断と責任で保護者との懇談の場を設定したり、定期的開催される地域のスクールナース同士の会合、保護者への保健教育実施等、地域との交流がよくなされているという点は日本の養護教諭が見習うべき所であると思われる。

#### 4. まとめ

今回の研究から引き出される平均的な米国のスクールナース像は以下のようなものである。特性から見ると、学士の称号をもち、臨床経験のある中年の女性が2～3校を駆けもちして巡回しているといえる。活動状況から見ると、職務遂行能力に自信を持ち、教師との関係も悪くなく健康問題に関する相談・協議等も意欲的に行っている。子供と接し、その成長・変容に関わりの持てる相談活動に特に意欲的であるし、また時間も費やしている。しかし、救急処置、集団検診は時間を費やしている割には意欲が伴っていないようであるし、また、書類の整理等事務関係の仕事にも追われている。地域住民には保健の専門家ということで頼られる存在であるらしい。救急処置や集団検診をこなし事務仕事に追われながらも、自分のやりたい健康相談に力を入れるスクールナース像を伺い知ることができた。

付記：執務記録の中に日本の養護教諭が行わない細菌培養 (Streptococcus culturing)、処方箋 (Medication sheet) など意味が不明な単語がみられたのでロサンゼルスの高校に勤務するスクールナースの Lilly Kitano に電話で問い合わせ、その回答も本稿の考察のなかに加えた。(本論文の要旨は1987年12月に開催された第30回東海学校保健学会で

発表した。)

(昭和63年9月16日 受理)

### 参考文献

- 1) グラディス=セリユー他著, 極東学芸出版者編集部訳: 看護史, 331-332, 極東学芸通信出版社, 東京, 1949.
- 2) Special Report, Robert Wood Johnson Foundation 9, Number 1, 1985.
- 3) Hilmar, A., Mcatee, A.: The School Nurse Practitioner and her Practice: A Study of Traditional and Expanded Health Care Responsibilities for Nurses in Elementary Schools, *Journal of School Health*, 51 (7), 475-478, 1981.
- 4) Brink, S.G., Dale, S, Williamson, M.C., Nader, P.R.: Nurses and Nurse Practitioners in Schools, *Journal of School Health*, 51 (1), 7-10, 1981.
- 5) Dungy, C.I., Mullings, R.G.: School Nurse Practitioners: Analysis of Questionnaire and Time/motion data, *Journal of School Health*, 51 (7), 475-478, 1981.
- 6) Goodwin, L.D.: The Effectiveness of School Nurse Practitioners, A review of the Literature, *Journal of School Health*, 51 (9), 623-624, 1981.
- 7) Blauvelt, L.: Closing the gaps in School Health Services, *Journal of School Health*, 47 (7), 422-425, 1977.
- 8) Chen, S.P.: Role Relationships in a School Health Interdisciplinary team, *Journal of School Health*, 45 (3), 172-176, 1975.
- 9) Fricke, B.: The Illinois Study of School Nurse Practice, *Journal of School Health*, 42 (4), 203-206, 1972.
- 10) アメリカ学校保健協会看護委員会 (小倉 学ほか訳): 学校保健計画におけるナース-学校看護指針, 東山書房, 1969.
- 11) White, D.H.: A Study of Current School Nurse Practice Activities, *Journal of School Health*, 55 (2), 52-56, 1985.
- 12) Stanhope, M., Lancaster, J.: Community Health Nursing, Process and Practice for Promoting Health, St. Louis, C.V. Mosby Co., 731, 1984.